

**日本分析化学会九州支部**

# **支 部 ニ ュ ー ス**

---

---

**第 29 号 2014 年 3 月**



九州支部ウェブサイト  
[http://www.jsac.or.jp/~jsac\\_kyushu/](http://www.jsac.or.jp/~jsac_kyushu/)

2013 年度 日本分析化学会九州支部  
〒816-8580 福岡県春日市春日公園 6-1  
九州大学大学院総合理工学研究院

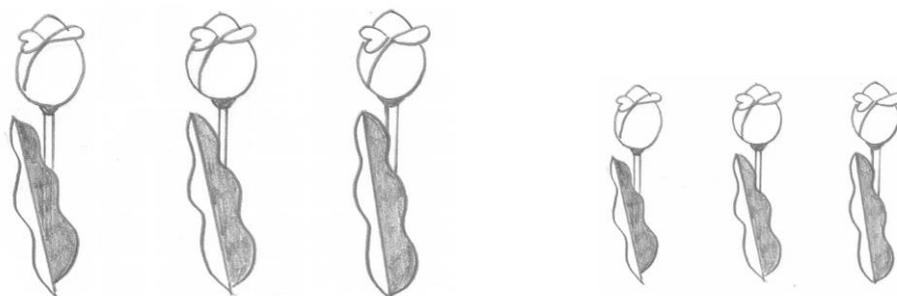
# 新旧支部長からのごあいさつ

## 支部長就任のご挨拶

この度、2014年度の九州支部長を拝命しました松井利郎と申します。現在、九州大学農学研究院生命機能科学部門食料化学工学講座におきまして、食品分析学研究室を担当しております。2010年4月より同研究室の運営をはじめてまだ日も浅く、今回の大役は甚だ役不足で、会員の皆様には多大なご迷惑をお掛けするのではと危惧しております。どうぞよろしく、またお手柔らかにお願いいたします。現在は、HPLC, MS, NMR法などの各種分析装置を活用して食品の有する機能性（官能特性、生体調節性）の客観評価法の構築並びに細胞、動物レベルでの生理機能の解明に関する研究に取り組んでいます。ちなみに、我が国において「食品分析」と名のつく研究室は残念ながら2研究室のみで、食品科学分野での分析化学の重要性が十分に認知されていないのかも知れません。他方、我が国が科学立国として発展するために分析化学分野の果たす役割は重要であり、「科学技術イノベーション総合戦略」（2013年6月閣議決定）推進のための基幹科学分野と考えます。その項目のひとつである「国民の健康増進」が分析化学と食品科学の融合的発展によって達成できることを願う次第です。

さて、平成26年度の主な支部活動としては、例年通りに九州支部若手の会主催による春の講演会（5月17日、世話役：九州大学農学研究院 野間誠司先生）、夏季セミナー（7月25日-26日、世話役：九州大学工学研究院 森 健先生）が開催される予定となっております。また、分析化学講習会（世話役：九州大学薬学研究院 浜瀬健司先生）、化学関連支部合同九州大会、機器分析ワークショップ等も例年通りに開催される予定です。なお、本年度は北海道支部との交流事業である緑陰会セミナー参加の年となるようです。是非とも会員の皆様におかれましてはこれら支部活動へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

来年（平成27年度）は九州支部が年會を担当する年となります。準備を含め、九州支部の力を結集する良い機会と考えます。是非ともこれを機に会員数の拡充が達成されることを願っております。1年間で、かつ若輩ですが、支部の発展に貢献できればと考えておりますので、どうぞ今後とも九州支部へのご協力を重ねてお願い申し上げます。



# 支部長退任のご挨拶

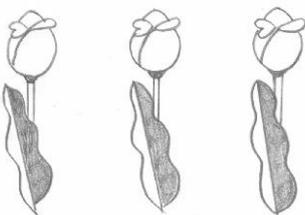
2013 年度日本分析化学会九州支部長に就任後、支部関連行事を無事に運営できましたこと、ひとえに九州支部の日本分析化学会会員皆様のご多大なるご支援、ご尽力のおかげによるものです。厚く御礼申し上げます。

平成 25 年 3 月より 1 年間、私は本学会九州支部の運営を任されました。お引き受けした当初は予想していなかった学内の重要役職があれよあれよと増えた時期に重なりましたので、次期支部長であった年中には、別の方への交替をお願いした方が誠意ある態度では無いかと内心、音をあげていた時もありました。現時点でも、正直申しあげますと自身満足するほど支部活動に尽力できなかったと感じておりますし、行き届くべき配慮が不十分であったことにも今更ながら思い至らないではありません。そのような中においてもなんとか無事物事を運べたのはひとえに、執行部役員を初めとしてご尽力いただいた方々に負います。この間、会議や経理等の実務は石岡寿雄庶務幹事および磯田美紀会計幹事に担当していただきました。吉留俊史副支部長には本支部ニュースの作成と編集を、田嶋晴彦副支部長には昨年秋の支部講演会および化学物質評価研究機構久留米事業所の見学会のお世話を主に担当いただきました。私が至らなかった分を補って余りある優れた運営能力を示して頂いたこと心より感謝しております。



支部関連の講演会、学会、セミナーでは、多数の若手研究者や大学院生に集まっていただき、各種のポスター受賞者を中心として活発な発表、討論がなされました。春講演会世話人である野間誠司先生、夏季セミナー世話人である岸川直哉先生、有り難うございました。分析化学講習会についてはこの間、実施見直しを含めて真摯に検討してきていますが、第 54 回実行委員長の下田満哉先生を初め、実行委員、幹事会社、会場を提供頂いた福岡市産学連携交流センターと九州大学、共催等ご協力頂いた組織の方々、開催に漕ぎ着けられましたこと感謝いたします。今回、浜瀬健司先生中心の尽力で液体クロマトグラフィー分析士初段試験の併設という新しい試みも加えることができています。支部の機器分析ワークショップ事業では、本年度もジェイ・サイエンス西日本(株)幹事会社様より、九州の各方面において最新機器の講演会を開催していただきました。その際、各会場で支部幹事の先生方のご挨拶と日本分析化学会のパンフレット等の配布および学会会員拡充活動をしていただきました。また、本部企画ではありますが、第 12 回アジア分析化学会議も今坂藤太郎先生を実行委員長として、九州大学の馬出キャンパスにて、3 つの併設シンポジウムも合わせて成功裏に開催されています。挙げ連ね始めれば既に冗長かと存じますので、前述にて取り上げることができなかった企画を含め、本年度全ての支部関連活動に関してご協力いただいた支部会員の方々、支部役員の方々に重ねて厚く御礼申し上げます。

上述の九州支部の学会活動において、九州分析化学会賞には甲斐雅亮先生を選考し、5 名の優れた若手研究者に九州分析化学奨励賞を授与いたしました。また、昨年に引き続き、平成 25 年度日本分析化学会年会において九州支部推薦者が各賞を受賞しています。学会賞を山口敏男先生が、奨励賞を大平慎一先生が、CERI 評価技術賞を戸田敬先生が受賞されています。この場をお借りして受賞されました皆様に心よりお祝い申し上げますとともに、引き続き九州支部会員としてのさらなるご貢献をお願い申し上げます。



最後になりましたが、今後とも、支部会員の皆様にご支援をお願いするとともに、平成 26 年度支部長松井利郎先生を中心にして九州支部の益々の発展を祈念して、退任の挨拶にかえさせていただきます。

(九州大学 原田 明)

# 支部活動報告

## ❖ 第26回九州分析化学若手の会 春の講演会 ❖

期日：2013年5月25日（土）  
主催：九州分析化学若手の会、（公社）日本分析化学会九州支部  
会場：九州大学箱崎キャンパス国際ホール（福岡市）  
世話人：岡上 吉広（九大院理）  
\*詳しくは支部ニュース第28号をご覧ください。

## ❖ 第50回 化学関連支部合同九州大会 ❖

期日：2013年7月6日（土）  
共催：（公社）日本分析化学会九州支部ほか7化学関連支部  
会場：北九州国際会議場および AIM ビル（北九州市）  
2013年度は第50回に当たり、50周年記念特別講演が開催されました。  
2013年度九州分析化学ポスター賞4名が決定いたしました。  
\*詳しくは支部ニュース第28号をご覧ください。

## ❖ 第31回九州分析化学若手の会 夏季セミナー ❖

2013年7月26日（金）～7月27日（土）の日程で、夜景で有名な長崎市の稲佐山中腹にある長崎ホテル清風を会場として第31回九州分析化学若手の会夏季セミナーを開催しました。この夏季セミナーは九州地区における分析化学関連の若手研究者ならびに学生の相互交流の促進と学術的意識の向上を目的として年1回合宿形式で開催されています。今回は、九州各地あるいは北海道から合わせて152名（学生122名、教員・社会人30名、うち女性47名）の参加者を迎え、たいへん盛んにセミナーを実施することができました。

夏季セミナー初日は、第50回化学関連支部合同九州大会での九州分析化学ポスター賞受賞者である梶山祥太君（九大院理）、寺田侑平君（九大院工）、池田知弘君（九工大院情報工）及び川越亮介君（九大院薬）らによる模範ポスター講演から開始し、直

後に行われた一般ポスター発表の手本となるような講演が行われました。座長は梅木辰也先生（佐賀大院工）、野間誠司先生（九大院農）、石松亮一先生（九大院工）及び池田理恵先生（長崎大院医歯薬）にそれぞれご担当いただきました。続いての一般発表は、88件とセミナーに参加した学生の7割以上がエントリーするという日本分析化学会九州支部の活発さをよく表すような発表となり、教員、大学院生及び学部生が入り交じっての討議が繰り広げられました。発表終了後、夏季セミナー参加者全員での投票により、優秀発表に相当する「九州分析化学若手賞」の選考が行われました。引き続き、日本分析化学会北海道・九州支部若手の会交流事業の一環として、中谷暢丈先生（酪農学園大）を北海道よりお招きし、「イオン排除/陽イオン交換型イオンクロマトグラフィによる無機陰陽イオン類の同時分離測定法の進展と応用」という演題でご講演頂きました。この招待講演の座長は松浦博孝先生（熊本大院自然）にご担当頂きました。その後は、九州分析化学奨励賞の授与式と九州分析化学若手の会の総会がとり行われました。自由時間をはさんでの夕食会においては、各研究室の趣向を凝らした研究室紹介が行われましたが、その中でも場を沸かせてくれた演者に対してささやかな副賞を贈呈しました。引き続きの情報交換会でも多くの参加者の熱い議論が深夜まで続けられ、相互の交流がより一層深まったと思います。

2日目は、次年度の夏季セミナー世話人の森 健先生（九大院工）より予告が行われた後、招待講演として小野正博先生（京大院薬）より「アルツハイマー病の生体分子イメージング」という演題で和田光弘先生（長崎大院医歯薬）の座長のもとに、アルツハイマー病の画像診断の現況について鮮明な画像とともにご講演頂きました。引き続き、前日に授与式が行われた九州分析奨励賞の受賞者である伊藤華苗君（福岡大院理）、川本大祐君（九大院理）、Sarenqiqige君（九大院理）、富田健太郎君（九大院総理工）及び二村朱香君（熊本大院自然）らによる受賞講演が行われました。受賞講演の座長は神崎亮先生（鹿児島大院理工）、貴田祐一郎先生（九大院工）、浜瀬健司先生（九大院薬）、巴山 忠先生（福

岡大薬)及び大山 要先生(長崎大院医歯薬)にそれぞれご担当頂きました。いずれの受賞講演においても教員・学生を問わない活発な質疑応答が展開され、留学生の受賞者による英語での講演に対しては教員の手助けを借りながら学生が英語で質疑応答を行うという一幕も見られました。夏季セミナーの閉会式では、前日に行われた一般ポスター発表の投票結果より、上田祐生君(佐賀大院工)、齋藤賢吾君(九大院総理工)、堤 亮輔君(九大院工)、中村惟孝君(熊本大院自然)、山崎孝幸君(熊本大院自然)、玉嶋江莉奈君(福岡大薬)、大坪裕紀君(九大院システム生命)、登 貴信君(九大院工)、関谷 潤君(北大院総化)及び鬼ヶ原弘久君(九大院薬)の10名に九州分析化学若手賞が授与されることが決定され、授与式が行われました。続いて、平成26年度の九州分析化学若手の会春の講演会世話人である野間誠司先生(九大院農)による講演会の案内後、全員で記

念写真撮影を行い、夏季セミナーは全プログラムを終了しました。

本年度の夏季セミナーの円滑運営のために、九州支部からの助成に加えて公益財団法人加藤科学振興会、公益財団法人日本教育公務員弘済会、公益財団法人サントリー生命科学財団及び多数の企業から助成金や広告費としてご支援を頂いております。これらのご支援により今回の夏季セミナーを盛会の内に終えることができました、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。最後に講演者、座長の先生方ならびにご参加頂いた皆様、長崎ホテル清風の皆様、そして運営にご協力いただきました多くの方々に深く感謝の意を表したいと思います。来年度の夏季セミナーでも皆様とお会いできることを楽しみにしております。

岸川 直哉(長崎大院医歯薬)



#### ❖ 第54回 分析化学講習会 ❖

期日：8月7日(水)～9日(金)

主催：(公社)日本分析化学会九州支部

共催：福岡市、九州大学学術研究都市推進機構、日本化学会九州支部、電気化学会九州支部、日本薬学会九州支部、日本食品科学工学会西日本支部、日本農芸化学会西日本支部、日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部、日本臨床化学会九州支部、日本水環境学会九州支部、福岡県環境計量証明事業協会

会場：九州大学伊都キャンパス、福岡市産学連携交流センター(福岡市)

実行委員長：下田 満哉(九大院農)

2013年度の受講生は8月7日65名、8日65名、9日65名でした。また、液体クロマトグラフィー分析士初段が42名に与えられました。おめでとうございます。

\*実習内容の詳細は支部ニュース第28号をご覧ください。

#### ❖ 第12回アジア分析化学会議(Asianalysis XII) ❖

2013年8月22日(木)～24日(土)、九州大学馬出キャンパス医学部百年講堂(福岡市)で、今坂藤太郎実行委員長のもと、ASIANALYSIS XIIが開催されました。

参加者は314名(国内：169名、国外：145名)、

講演数は 249 件（プレナリー：3 件、キーノート：8 件、招待 21 件、口頭 98 件、ポスター：119 件）にのぼり、大変盛会でした。

シンポジウムは 3 件が開催され、いずれも盛況でした：

- The Third Symposium for Education of Analytical Chemistry

オーガナイザー：渡會 仁（大阪大学）

- The 2013 China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chemistry

オーガナイザー：佐藤 博（長崎国際大学）

- International Symposium on Environmental Science and Technology in Asia

オーガナイザー：今坂藤太郎（九州大学）

懇親会としての博多湾マリエラクルーズには、約 250 名（希望者が殺到し、また色々な手違いが重なりにかなり苦労された様子が、「ぶんせき」11 月号に面白く書かれています）の参加があり、大変な人気でした。ポスター賞 7 名が決定され（脇田久伸 選考委員長）、クルーズ中に表彰式が行われました。

最終日には九州大学伊都キャンパスのラボツアーが開催され（中野幸二 世話人）、著名な先生方を含む約 16 名の参加者があり、意義のあるものでした。

次回はタイのチェンマイで開催予定との公式表明がありました。

\* 「ぶんせき」2013 年 11 月号に実行委員長による詳しい報告があります。

#### ❖ 2013 年度 機器分析ワークショップ ❖

（株）ジェイ・サイエンス西日本の川上様、津留様、今村様のお世話で、以下の通り、九州各地で機器分析ワークショップを開催しました。参加者へのアンケート調査の結果、たいへん好評でした。

主催：（公社）日本分析化学会九州支部

共催、協賛：下記の各会場を参照

テーマ：有機分析・無機分析の新テクノロジー紹介

#### ● 大分会場

協賛：サーモフィッシャーサイエンティフィック（株）、（株）ジェイ・サイエンス・ラボ

期日：2013 年 5 月 23 日（木）13:30～16:40

会場：大分大学工学部応用化学科 1 階セミナー室

参加者：40 名

#### ● 北九州会場

協賛：サーモフィッシャーサイエンティフィック（株）、（株）ジェイ・サイエンス・ラボ

期日：2013 年 5 月 24 日（金）13:30～16:40

会場：九州工業大学戸畑キャンパス教育研究 8 号棟 C-303

参加者：17 名

#### ● 久留米会場

協賛：サーモフィッシャーサイエンティフィック（株）、日本ダイオネクス（株）、（株）ジェイ・サイエンス・ラボ

期日：2013 年 11 月 21 日（木）13:30～16:40

会場：（株）久留米ビジネスプラザ（D 会議室）

参加者：15 名

#### ● 熊本会場

協賛：サーモフィッシャーサイエンティフィック（株）、（株）ジェイ・サイエンス・ラボ

共催：（株）ミカド科学産業

期日：2013 年 11 月 22 日（金）13:30～16:40

会場：熊本大学理学部 2 号館 2F（C226）

参加者：38 名

#### ❖ 2013 年度 九州支部講演会 ❖

期日：2013 年 11 月 8 日（金）

主催：（公社）日本分析化学会九州支部

会場：九州大学筑紫地区 総合研究棟 筑紫ホール（福岡県春日市）

講演：

1. 「タンパク質及び核酸の蛍光・化学発光検出法の開発と病態診断への応用」(2013 年度 九州分析化学会賞受賞講演) 甲斐 雅亮（長崎大院医歯薬）
2. 「化学物質の生分解性評価に用いる活性汚泥の評価」 茅島 孝和（（一財）化学物質評価研究機構 久留米事業所）
3. 「SAGA-LS の概要と利用展開について」 岡島 敏浩（九州シンクロトン光研究センター）

\* 参加者 30 名で盛会でした。講演会終了後、見学会（化学物質評価研究機構 久留米事業所）が開催されました（後述）。

### ❖ 2013 年度 支部見学会 ❖

2013 年 11 月 8 日（金）、一般財団法人化学物質評価研究機構（CERI）久留米事業所の見学会が開催された。同日の午前、九州大学で行われた支部講演会終了後、見学会参加者は貸し切りバスにて見学会会場に移動した。CERI 久留米事業所は、久留米市内から筑後川を挟んだ宮の陣工業団地内にあり、バスは筑後川沿いに広がるのどかな田園地帯の中を横切って到着した。

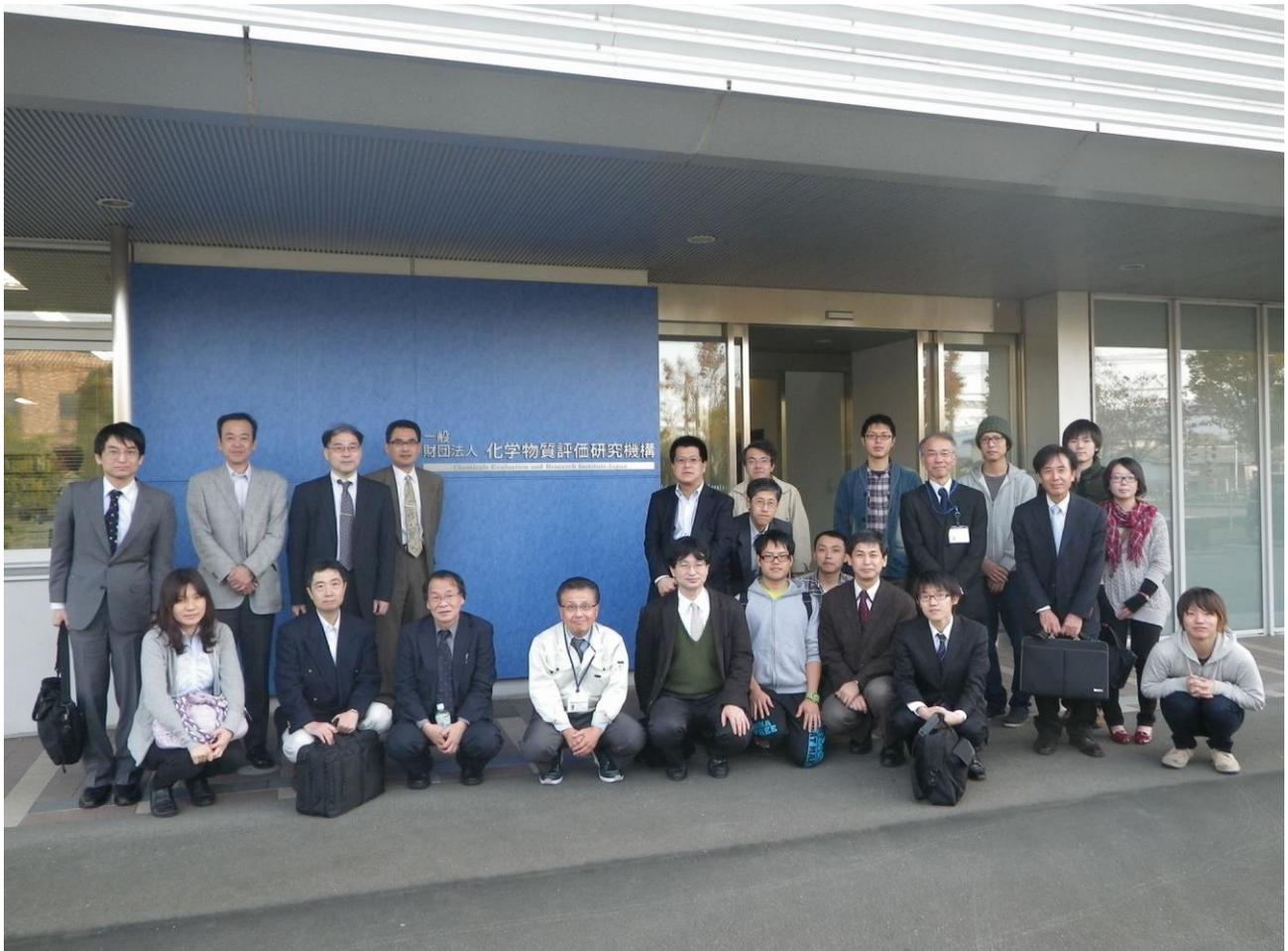
見学会に先立ち、CERI 久留米事業所の辻敏昭所長による挨拶があり、それに引き続いて、CERI 及び久留米事業所の業務案内、並びに最近のトピックスとして全排水毒性試験(WET)の話題が提供された。CERI は経済産業省の外郭団体で、化学物質審査規制法に基づく化学物質の安全性試験、高分子の物化性状試験、事故原因究明試験、環境汚染物質の分析・調査、計量法に基づく標準液や標準ガスの製造・校正、HPLC・GC 用高性能カラムの製造・供給、評価

技術の研究開発、安全性情報発信など、化学物質の安全に関して幅広く検査、研究、評価を行っている公正で中立な第三者機関である。

概要説明の後、3つの班に分かれて所内見学を行った。GC、HPLC、IR、ICP など分析化学ではなじみの深い機器が並び、MS 室では、主力機器である LC-MS/MS、GC-MS が多数配置されていた。同事業所では、生物試験も実施されていることから、コイ、ヒメダカ、藻類、ミジンコ、ニジマスなども飼育し、試験に用いられている。普段目にするものの少ない生物試験がどのように行われているかという点に興味を持つ方も多かった。日本最大規模で実施されている濃縮度試験に用いるコイはすべて自家生産で厳密に管理され、一時全国的に問題となったコイヘルペスの流行時も影響を受けなかったという。

見学会終了後、原田支部長が挨拶をされ、無事見学会を終了した。最後に、ご参加頂いた方々にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

（CERI 久留米事業所 田嶋 晴彦）



❖ 会議等 ❖

● 九州分析化学会賞・奨励賞選考委員会

期日：2013年6月1日(土)

会場：九州大学筑紫地区 先導物質化学研究所 中央棟 102 会議室

選考委員長：新留 康郎 (九大院工)

\*2013 年度 九州分析化学会賞受賞者 1 名、九州分析化学奨励賞受賞者 5 名については、支部ニュース第 28 号をご覧ください。

● 2013 年度第 1 回常任幹事会

期日：2013年6月29日(土)

会場：九州大学筑紫地区 先導物質化学研究所 中央棟 1 階 108 会議室

● 学会賞候補者推薦委員会

期日：2013年11月7日(木)

会場：博多グリーンホテル 2 号館 2 階会議室

● 2013 年度幹事会

期日：2013年11月7日(木)

会場：博多グリーンホテル 2 号館 2 階会議室

● 2013 年度第 2 回常任幹事会

期日：2014年2月22日(土)

会場：九州大学筑紫地区 先導物質化学研究所 中央棟 1 階 108 会議室

❖ 2013 年度 日本分析化学会各賞 受賞者(九州支部) ❖

平成 25 年度日本分析化学会の各賞を九州支部から以下のとおり受賞されました。まことにおめでとうございます。

学会賞 山口敏男 教授(福岡大理)

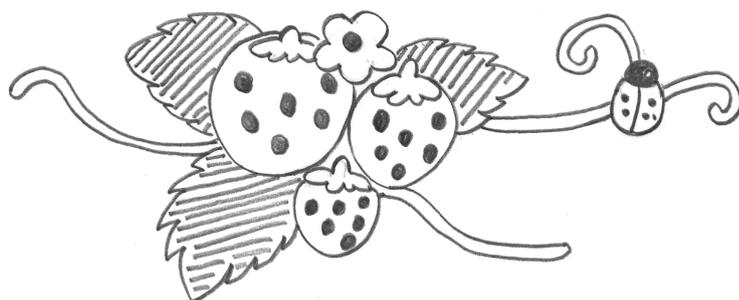
「量子ビームを用いる溶液状態分析法の開発とその応用に関する研究」

奨励賞 大平慎一 准教授(熊大院自然)

「物質の相間移動に基づくオンライン分析デバイスの開発」

CERI 評価技術賞 戸田 敬 教授(熊大院自然)

「マイクロガス分析システムの開発と環境分析への応用」



# 本部関連

## ❖ 第74回 分析化学討論会 ❖

期日：2014年5月24日(土)～25日(日)

会場：日本大学工学部(郡山市田村町)

討論主題：

1. 放射能と分析化学ーモニタリングと計測技術ー
2. 地球環境を読み解く分析化学
3. 力量あるバイオイメージングを目指して
4. 金属素材の高度循環利用と分析科学
5. 複雑・曖昧・網羅性に挑戦する生命分析科学

実行委員長：平山 和雄(日大工)

<http://conference.wdc-jp.com/jsac/touron/74/>

## ❖ 日本分析化学会 第63年会 ❖

期日：2014年9月17日(水)-19日(金)

会場：広島大学東広島キャンパス(東広島市)

講演申込開始 4月23日(水)14時

講演申込締切 6月4日(水)14時

要旨本文締切 7月2日(水)14時

\*詳細は「ぶんせき」誌を御覧下さい

## ❖ Analytical Sciences 誌等への投稿のお願い ❖

国際的に認知された論文誌は、会員と学会にとって重要なだけでなく、我が国の優れた研究成果を発信して世界的なプレゼンスを高めます。Analytical Science 誌は、優れた学術論文・総説を掲載し、併せて国際的な認知度を向上させる取り組みを行っています。例えば、J-STAGEによるオープンアクセス化、メールマガジンなどがあります。毎月各号の“Hot Article”選定と表彰、年間最多引用論文賞—“Most Cited Paper Award of Analytical Sciences”も好評を頂いています。投稿は完全に電子化され、ス

ムーズかつ短期間のうちに成果を公開できます。良い研究論文はぜひ Anal. Sci.誌へご投稿ください。他のジャーナル等に投稿される場合も Anal. Sci.誌の論文を引用頂けましたら幸いです。Anal. Sci.誌の国際プレゼンス向上に、皆様方のご協力をお願いいたします。また、「分析化学」などの他誌も可愛がっていただき、機会があればご投稿ください。

## ❖ 2014年度 支部からの役員 ❖

理事：甲斐 雅亮(長崎大院医歯薬)

代議員：井原 敏博(熊本大院自然科学)、今坂 藤太郎(九大院工)、椛島 力(長崎大院医歯薬)、澤津橋 徹哉(三菱重工業(株))、下田 満哉(九大院農)、浜瀬 健司(九大院薬)、中野 幸二(九大院工)、山口 敏男(福岡大理)、横山 拓史(九大院理)

編集委員：

「ぶんせき」高椋 利幸(佐賀大院工)

「分析化学」呉 行正(福岡工大工)

「Analytical Sciences」中野 幸二(九大院工)

## ❖ 入会を歓迎します ❖

日本分析化学会の正会員と学生会員は2013年12月で、5000人を若干切っています。あなたのお近くに日本分析化学会への入会を考えていただけそうな方がいらっしゃいませんか?是非、入会をお誘い下さい。支部の事務局へご連絡頂ければ入会案内をお送りします。また、入会ご検討中の方に対しては、要望すれば機関紙の見本を学会本部からもらえるそうです。日本分析化学会の会員拡充にどうぞご協力下さい。

# 今後の支部活動計画

## ❖ 支部活動・事業予定 ❖

### ● 第27回 九州分析化学若手の会 春の講演会

期日：2014年5月17日(土) 13:30～

会場：九州大学箱崎キャンパス 農学部 4号館 110番教室 (福岡市東区 6-10-1)

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/hakozaki/hakozaki.html>

講演：

- ・二枚貝の声を聞く一般体運動測定装置「貝リングル」 — (九大院農) 島崎 洋平
  - ・細胞分裂における微小管ダイナミクスに関わる azide の新たな標的分子=20年来の問題の決着と研究室の know-how= (甲南大 FIRST) 西方 敬人
  - ・MALDI-MS を基盤とした代謝プロファイリング技術の開発 (九大レドックスナビ) 藤村 由紀
  - ・マイクロガス分析システム  $\mu$ GAS によって解き明かす大気中の HCHO の動態 (生成・消失・PM2.5) (熊大院自然) 戸田 敬
- 世話人：野間 誠司 (九大院農)

### ● 第51回 化学関連支部合同九州大会

期日：2014年6月28日(土) 9:00～17:00

会場：北九州国際会議場 (北九州市小倉北区浅野 3-9-30)

発表申込期間：3月10日(月)～28日(金)

予稿原稿締切：5月9日(金)

発表形式：特別講演(1件)、依頼講演(8件)、一般講演(ポスターのみ)

支部推薦依頼講演：「電気チップで癌を調べる：Electrochemical Telomerase Assay (ECTA)による口腔癌診断法」 (九工大院工) 竹中 繁織

代表世話人：小椎尾 謙 (長崎大院工；繊維学会)

### ● 第32回 九州分析化学若手の会夏季セミナー

期日：2014年7月25日(金)～26日(土)

会場：北九州 かんぼの宿 (北九州市若松区)

内容：・総会

- ・九州分析化学奨励賞授与式・受賞講演

- ・依頼講演 (北海道支部よりの派遣を含む) 2件
- ・模範ポスター発表 (九州分析化学ポスター賞)
- ・一般ポスター発表
- ・懇親会

参加費：一般 ¥8,500、会員学生 ¥7,500、非会員学生 ¥8,500

世話人：森 健 (九大院工)

### ● 第55回 分析化学講習会

期日：8月6日(水) - 8日(金)

代表世話人：浜瀬 健司 (九大院薬)

## ❖ 2014年度 支部執行部・役員 ❖

### ● 執行部

- 支部長：松井 利郎 (九大院農)
- 次期支部長：肥後 盛秀 (鹿大院理工)
- 副支部長：井上 高教 (大分大工)
- 佐藤 政雄 (福岡市環境局 保健環境研究所)
- 監査：原田 明 (九大院総理工)
- 田嶋 晴彦 (化学物質評価研)
- 庶務幹事：井倉 則之 (九大院農)
- 会計幹事：田中 充 (九大院農)

### ● 常任幹事 (13名)

- |              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| (九工大・福教大)    | 原田 雅章 (福教大)                 |
| (九大院工)       | 森 健 (九大院工)                  |
| (九大院理)       | 竹原 公 (九大院理)                 |
| (九大院薬・第一薬大)  | 黒木 広明 (第一薬大)                |
| (九大院農・九産大)   | 大浦 博樹 (九産大工)                |
| (九大筑紫・近大産理工) | 河津 博文 (近大産理工)               |
| (福岡大)        | 塩路 幸生 (福大理)                 |
| (佐賀)         | 高椋 利幸 (佐賀大院工)               |
| (長崎・熊本)      | 甲斐 雅亮 (長崎大院医<br>歯薬)         |
| (長崎・熊本)      | 西田 正志 (崇城大工)                |
| (大分・宮崎)      | 大島 達也 (宮崎大工)                |
| (鹿児島・沖縄)     | 新垣 雄光 (琉球大理)                |
| (企業・官公庁)     | 川上 健次 ((株)ジェイ・<br>サイエンス西日本) |

# 事務局より

## ❖ 各賞推薦依頼および規定 ❖

### ▼ 九州分析化学会賞応募規定（抜粋）

対象者：原則として九州在住もしくは九州の研究教育機関・企業等に在籍し、かつ日本分析化学会の正会員にして、分析化学に関する研究、教育及び九州支部の運営において功績が顕著であり、九州の分析化学の発展に多大なる貢献をした者で、受賞の年の1月1日現在、原則として20年間以上引き続き本会会員であり、満65歳以下の者。

必要書類・締切：推薦者はA4 1枚の推薦書（指定用紙）、被推薦者の業績目録、被推薦者本人による業績内容の説明文（図表等を含めA4 4枚程度、教育・支部運営についてA4 1枚程度、英文可）の正本1部、写し9部（計10部）を4月末日までに支部長に送付。

### ▼ 九州分析化学奨励賞応募規定（抜粋）

対象者：原則として、九州に在住もしくは九州の研究教育機関・企業等に在籍し、かつ日本分析化学会会員で、受賞年度の4月1日において満30歳未満の者。ただし、修士課程（博士前期課程）及び博士課程（博士後期課程）に在籍する場合には満35歳未満の者。非会員は受賞時まで日本分析化学会の入会申請をしなければならない。

必要書類・締切：推薦者はA4 1枚の推薦書（指定用紙）、被推薦者の論文目録、講演題目のリスト及び論文等の別刷りの一部（複数可）、さらに被推薦者本人による研究内容の説明文（A4 2枚、英文可）及び図表等（5枚程度）の正本1部、写し8部（計9部）を指定期日（受付期間：4月1日-4月30日）までに支部長に送付。

※募集要項の詳細は支部のホームページをご覧ください。申請に必要な書類ファイルもダウンロードできます。

## ❖ 編集後記 ❖

2014年に入り、関東などでは例年になく大雪で、異常気象の現われの一つなのだろうかと危惧しているところです。“4月”の声もそこに聞こえ、皆様も新年度に向けての御準備をされている事と拝察申し上げます。

九州大学の浜瀬先生から引き継ぎ、何とか一年間が過ぎようとしています。これも原田支部長をはじめとする事務局の皆様のお力添えがあったからと改めて感謝しているところです。殆どお役に立てず、申し訳ない思いで一杯です。

さて、2014度は大学側副支部長を大分大学の井上先生にバトンタッチ致します。松井次期支部長、井上次期副支部長、佐藤次期副支部長のもと、九州支部が更に発展をしていくことを祈念しております。

皆様には一年間の御支援に感謝いたしますとともに、次年度も分析化学会九州支部への一層の御指導、御支援をお願い申し上げます。

（副支部長 吉留 俊史）



## 2013 年度 日本分析化学会九州支部 事務局

〒 816-8580 福岡県春日市春日公園 6-1 九州大学大学院総合理工学研究院  
TEL 092-583-7552

支部長	原田 明 (九州大学大学院総合理工学研究院) harata@mm.kyushu-u.ac.jp / 092-583-7552
副支部長	吉留 俊史 (鹿児島大学大学院理工学研究科) tome@apc.kagoshima-u.ac.jp / 099-285-8341
副支部長	田嶋 晴彦 (化学物質評価研究機構久留米事業所) tajima-haruhiko@ceri.jp / 0942-34-1500
庶務幹事	石岡 寿雄 (九州大学大学院総合理工学研究院) ishioka@mm.kyushu-u.ac.jp / 092-583-7557
会計幹事	磯田 美紀 (九州大学大学院総合理工学研究院) satomiki@mm.kyushu-u.ac.jp / 092-583-7553